

日付:2016年8月21日／聖書:列王記上19:1～18

説教:「静かにささやく声」

エリヤは、王妃イゼベルの「エリヤ暗殺計画」を聞いた。これまでのエリヤだと「臨むところだ！」と立ち向かっていくかと思うが、ここに来てエリヤは、「恐れ、直ちに逃げた」とある。エリヤは「主よ、もう十分です。わたしの命を取ってください」、と弱り切っている。そのエリヤに対して神は天使を用いる。天使がパンと水を持って来て、寝ているエリヤを起こし、「起きて食べよ」とある。二回繰り返して「起きて食べよ」というのは、ここに聖書の強調があると見る。「起きて食べよ」とは、もう死にたいとまで思うエリヤに対し、“生きなさい”というメッセージである。私たちも時に疲れ果て、もういい、どうなってもいい、死にたい…ということがあろう。でも主なる神は、「起きて食べよ」「生きなさい」生きよ、というメッセージを私たちにも投げかけてくださっていることを覚えたい。《神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。》(Iヨハネ4:9)

もう一つ。「風」や「地震」、「火」というものは、この世の自然現象の中で最も力強いもの。台風や竜巻は、まさに山をも岩をも破壊する力がある。また、地震は大地を揺らし、自然の力をまざまざと見せつける。そして、火、炎もまた、全てを焼き尽くしてしまう恐ろしいもの。そのような力にこそ神は居られると、力の中に神を見ようとするエリヤがいることを指摘している。私たちも大きな力の傘にいることが、安全であり、平和であるという思いはないか？

日本は、世界で唯一の被爆国でありながら、未だかつて、核全面禁止などと日本政府は言わない。それは、核保有国米国の「核の傘」のもとにあるから。

聖書から教えられて行きたい。…激しい風、山を裂き、岩を砕く風。しかし、その風の力の中に主はおられない。風の上に地震が起こった。しかし、地震の力の中にも主はおられない。地震の後に火が起こった。しかし、火の力の中にも主はおられなかった。このことは、力の中に神を見てはいけないということだろう。そして、「火の後に、静かにささやく声が聞こえた」とある。それは神の声である。「静かにささやく」とは、「細い」とか「小さな」というふう置き換えることができる。すると、「細い声」「小さな声」というになるが…。このところは、力の中に神を見ようとするのではなく、細い声、小さな声の中に神を見よと聞こえる。(神谷)